

## みんなが楽しめるプラネタリウム！

### ユニバーサルデザインを導入！

#### 車椅子用リフトでらくらく移動！

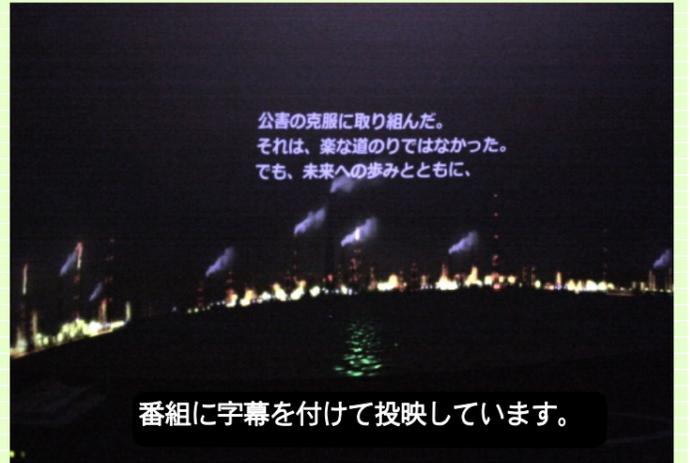
プラネタリウムでは、どなたにも宇宙を楽しんでもらうために、車椅子用階段昇降機を設置しました。これまでは、車椅子の方はプラネタリウムの最前列に座って観覧していただいていたのですが、リニューアル後は、最も見やすい場所で観覧していただくことができました。



#### 遮音室の中に要約筆記室！

どなたにもプラネタリウムを楽しんでいただく取り組みとして、『三重要約筆記サークルことのは』の皆さんと連携した字幕付

き投映を5月2日（土）、3日（日）に行いました。新しく設置した要約筆記室には、3台の字幕用プロジェクターを装備し、投映の内容に応じて字幕の場所を自由に変えることができます。今後も各番組ごとに1回ずつ字幕付き投映を行っていきます。（星空番組は字幕付き投映を行っていません。）また、当館では、ドーム内のどの席からでもご自分の補聴器（Tコイル付）で、音声、BGMを聞くことができます。磁気ループシステムを設置し、受信機の貸し出しも行っていきます。



番組に字幕を付けて投映しています。

## ありがとう！10,000人

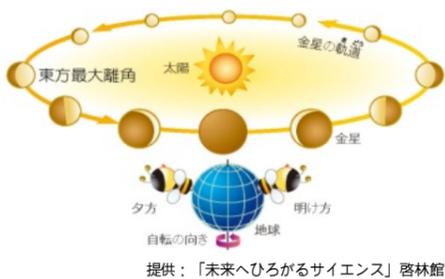
5月6日には、リニューアルオープンからのプラネタリウム観覧者が1万人に到達しました。1万人目のご家族にはドーム内で記念品をお渡ししました。これからも一人でも多くの方にプラネタリウムにお越しいただけるよう努力していきます。



### 6月の天文現象は？

#### 7日 金星が東方最大離角

日の入り後、西の空にとっても明るく金星が輝いています。7日に「東方最大離角」となり、しばらくの間、その輝きを楽しむことができます。金星は、太陽の周りを反時計回りに回っています。地球から見て太陽の東側で最も太陽と離れたときを、「東方最大離角」といい、この頃の金星を「宵の明星」といいます。



#### 30日 木星と金星が大接近

30日の日の入り後、西の空に明るい二つの惑星、金星と木星が見かけ上大接近します。金星の明るさがマイナス4.4等、木星がマイナス1.8等ですので、ひときわ目を引く存在になります。



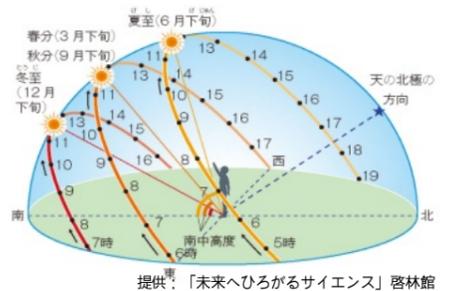
### 22日は夏至

6月22日（月）は夏至です。この日は、1年のうちで昼間の時間が一番長い日です。昼間の長さは、太陽の高さで決まり、季節によってその高さは違ってきます。

太陽が空の高いところを通る夏至は、空を横切る時間が長くなるために、昼間の時間が長くなります。そのため、夏至は日の出の時刻がもっとも早く、日の入りの時刻がもっとも遅い日とされています。ところが実際には、日の出がもっとも早い日は、夏至より1週間ほど早く、日の入りが最も遅い日は夏至よりも1週間ほど後になります。

地球の公転軌道が楕円形である

ことと、地軸が傾いていることが主な原因です。



三重県二見浦（ふたみうら）にある夫婦岩では、夏至の時期だけ岩と岩の間から太陽が昇ります。そして夏至の日には「夏至祭」が行われます。日の出を浴びながら夫婦岩に向かって海に入り身を清める行事です。

## 天体望遠鏡で観る太陽の素顔

太陽を観察する場合は、太陽から来る強烈な熱や光から目を守るために、特別な望遠鏡や機材が必要です。今年から、太陽を観察するための専用の望遠鏡（太陽望遠鏡）を導入しました。また、きらら号の望遠鏡にも太陽を直接観察できる専用の機材が入り、太陽をくわしく観察できるようになりました。ぜひ、みなさんも専用の機材を使って安全に太陽を観察してみませんか？

6月14日（日）11時と14時に行われる「ガリレオ教室」では、天文ボランティアさんが太陽についてお話をしたあと、太陽望遠鏡を使って太陽の素顔を直接観察してもらいます。ぜひご参加ください。なお、「ガリレオ教室」は、7月12日（日）にも同様の内容で行われますので、ぜひご参加ください。



## ★★観望会★★

### 《天文ボランティア主催観望会》

※きらら号は出動しません

★ 6月13日（土）

時間：19時から20時30分

場所：伊坂ダムサイクルパーク（管理事務所周辺）

内容：金星や木星、土星を見よう！

### 《博物館主催きらら号観望会》

★ 6月27日（土）

時間：19時30分から21時

場所：市民公園

内容：月と土星を見よう！

\*当日の自由参加です。

\*天候不順の場合は中止します。

## 編集後記

清々しい初夏の晴天のあとには、いよいよ梅雨の季節がやってきます。この時期は、星空を見るには適していませんが、わずかな晴れ間に、頭上あたりでオレンジ色に輝く星「アークトゥルス」を見つけることができます。日本では、麦の刈入れ時期に輝くことから「麦星」と言われていますが、梅雨の時期に輝くこともあって、「さみだれ星」とも言われています。梅雨の雲間に初夏の星をさがしてみたいかがでしょう。

